九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.385

2022(令和4)年12月13日(火)発行

世界で日本中で、連日連夜さまざまな問題が起こり、どう考えたら良いか迷ってしまいます。

そんな時「**人権は守られているか、環境の破壊ではないか、平和なのか、**の3点で考えると案外判断しやすいよ」と知人が教えてくれました。これからは**「人権・環境・平和」**の3点で政治も経済も社会問題も見てみようと思います。

原稿を募集します　テーマ「武力で平和は守られるのか」

○今年2月24日のロシアのウクライナ侵略から10カ月。日本でも防衛費の増額、敵基地攻撃能力強化や9条の改憲など、様々な意見が出ていますが、「武力で平和は守られるのか」のテーマで会員さんから原稿を募集します。　★来年2月発行の「九条はらまち」に掲載します

★500文字程度で　★〆切は1月20日　★原稿は事務局員へご提出ください

『武力でいのちと平和は守られるのか？』のパンフレットを同封郵送いたしました

○この会報とともに、『武力でいのちと平和は守られるのか?』(教育子育て九条の会発行・全15ページ)を皆さんに同封し郵送いたしました。現在の日本を取り巻く国際的な環境や、軍事に関する私たちの疑問に答えてくれています。

<「教育子育て九条の会」呼びかけ人>池田香代子、池辺晋一郎、上原公子、尾山宏、佐藤学、田中孝彦、暉峻(てるおか)淑子、藤田英典、堀尾輝久、槙枝元文、三上満、山田洋次

寄稿　お天道様は見ているよ

本会事務局員 石田賢二(2015年に郡山市に移住)

私が暮らしていたのは南相馬市原町区で、東電第一原発から二五キロ地点で、長い間そこに暮らしていると原発の負の部分が見えて来て、それは子ども達の未来にリスクを背負わせるものだと捉えていました。

そこに大甕産廃問題が起こった。

原発のリスクを背負いながら関東の人たちの生活を支えてきたのに、生活後の産廃を、そこから発生するリスクを二重に受ける理不尽さを子ども達に背負わさせることは出来ないと考えた。

そして、その心配は現実のことになったのです。核爆発が起こった。

「事故によって、大きな苦難に直面しました。5年経った今でも、憲法で保障された健康で文化的な生活がかなえられていない市民が数多くいます。」と当時の櫻井勝延市長は語り、「子ども達の未来のために私たちはどのような憲法を伝えていくべきなのでしょうか。私たちの生活再建と安心して暮らせる環境を取り戻すため、日本の憲法とは何かを考えていただきたいと思い、本冊子を発行しました。」と、日本国憲法小冊子を全戸配布しました。

私たちはテレビで放映される原発の安全性を訴えるコマーシャルを見て、国と東電一体となって安全神話の嘘を見る虚しさを感じていました。

子どもの頃、「お天道様が見ているよ」と大人たちは優しい眼差し持って教えてくれました。

国葬が議論もなく閣議決定される。憲政史上最大の、その名の下にその間にあった数々の問題を、嘘で固め乗り切る答弁、その手法が世の中に蔓延していないか。

清濁を分けることなく葬り去られて、いつしか無かったことになってしまう。国の形が変わってしまうことを恐れる。

近年、司法・行政・立法の三権が正しく機能しているのだろうか。

(2022年8月19日発行「こおりやま共同センターニュース」より)

会員さんのお便り・新聞投書

○元々南相馬市の出身者で、震災後に本会のことを知り会員になられた方も多いのですが、他市に住む3名の会員さんの、嬉しいお便りや新聞投書です。

神奈川県大和市　西野宮蒼生夫さん

世界も日本もめまぐるしく動く中、憲法も試練の時を迎えつつありますが、今こそ我々年寄りが頑張る時だと感を強くしております。歴史の真実と普遍的真理の側につく我々に勝算ありと信じつつ頑張りましょう。

また南相馬市博物館が原爆展開催の先進的な企画を立案する地域力も中々のものです。

○　　○

郡山市　吉井美貴さん

先日、南相馬市博物館に行って来ました。

相双地方在住の方々の被爆体験について、知らずに過ごしてきた自分を恥じながら、お一人おひとりの体験談を読ませて頂きました。相馬高校放送部のビデオも観ました。生徒さんの真っ直ぐな思いを感じました。

初めて広島の平和記念資料館を訪れた時と同じ衝撃と、胸の痛みを感じながら、とても貴重な時間でした。

被爆体験に触れ 不戦の誓い新た

福島市　渡部幸一さん

私は１０月末に、南相馬市博物館の企画展「相双の被爆体験を伝え継ぐ・証言ヒロシマ・ナガサキのこと」で広島平和記念資料館派遣講師の話を聞く機会があった。広島市での平和教育などについて話したが、漫画家の戦争体験などにも大変感動した。

驚いたのは、相双地域に２０人もの被爆者がいることだった。この方々が迷いに迷った末に「やはり、あのようにひどい原爆の被害を繰り返さないため」とそれぞれの体験を語った証言集『私も証言する』を手にした。

それを読みながら、２４歳で戦死した私の父の無念を思い起こした。１２月８日の開戦記念日を「二度と戦争をしない」誓いを新たにする日としたい。

（2022年12月4日『福島民報』投書の抜粋です。渡部さんの戦死されたお父様については、本会報№370・372「私の戦争体験」に掲載。本会のホームページでご覧ください。）

≪事務局より≫

私たちの活動が平和を守ってきた

日本の戦後77年の平和は、アジア太平洋戦争に対する国民の戦争への憎しみや反省が支えてきたものです。日本が戦争に巻き込まれることもなく、また安倍政権が執拗に9条改憲を企てようとしても改憲できずにきたのは、国民の反戦の思い、全国の「九条の会」の地道な活動の功績と自負しても良いと思います。

私たち「はらまち九条の会」も、2005年12月7日の発足から満17年になりました。その間のさまざまな活動は、逐一この会報で報告し記録として残されていますが、「微力でしたが決して無力ではなかった」と事務局員一同確信しています。何よりも、この小さな町で十数年間、約400名の会員さんに活動を支えていただいたおかげと心より感謝申し上げます。来年もよろしくお願いいたします。良いお年をお迎え下さい。

郵便物の遅れがあまりにひどい。翌日配達も土曜配達もなくなり、普通郵便物は市内でも3日以上かかり、最悪で6日間もかかっています。この会報郵送でも、南相馬市から埼玉県まで5日間もかかりました。こんな郵便でいいのでしょうか。

「はらまち九条の会」事務局

○会長：平田慶肇 TEL(0244) 24-1211
○事務局長：早坂吉彦 TEL090-2975-2508
○事務局次長：山崎健一（福島市）TEL090-7527-5453　Eメール：yamazakiken1@gmail.com
○会計：井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL22-7511・FAX26-0892
○石田賢二（郡山市）TEL080-5556-4037　○番場恵子 TEL22-0715　○大浦祥見 TEL24-0704
○志賀勝明（相馬市）TEL090-9530-5524　○若松麟二 TEL090-4929-7227　○田中徳雲（小高区）

♪雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ お話しましょ
昔むかしよ 燃えろよペチカ
（作詞北原白秋、作曲山田耕筰「ペチカ」満州唱歌集）